

新発見！忍藩主阿部家時代の漆器

郷土博物館には、文政6年（1823）

当時の忍城跡を描いた絵図があり、現在の忍城跡を基に城郭や堀、城下町の位置を現在の地図に復元した「忍城今昔地図」を作成しています。また、忍城跡の発掘調査は、今まで9回実施しており、その絵図が当時の様子を本当に描いたものなのかを確認しながら、調査を行っています。

平成24年5月から6月にかけて行った9回目の発掘調査では、貴重な発見がありました。

今回は、諏訪

曲輪東側の堀の発掘調査を行い、絵図に描かれている堀を発見しました。堀の東側の立ち上がり部分は、絵図とほぼ同じ位置でしたが、堀の中間部分に小さな鳥状の高まりの跡が確認されたため、絵図は若干省略して描かれていることも分かりました。



発掘調査によって発見された漆器



阿部家の家紋

さらに、幕末より前の時期の堀も調査したところ、黒漆を塗った器が出土し、金色で紋様が描かれていたのです。

調査の結果、その紋様は寛永16年（1639）から忍藩主を務めた阿部家の家紋「丸に違い鷹の羽紋」に非常によく似ていることが分かりました。また、家紋が簡単に描かれていることや、出土した場所が諏訪曲輪近くの堀であることから、大名家が使用していた調度品ではなく、家臣が使用していた漆器ではないかと推測されます。

か」と推測されます。

阿部家は文政6年（1823）、「三方領知替え」によって白河へ移ったため、阿部家の家紋の入った品物は、行田には残されていませんでした。また、これまでの忍城跡の発掘調査においても、阿部家の家紋が入った遺物は発見されていないため、今回が初めての出土となりました。

このような発見は数少ないものですが、地道な発掘調査を続けることで、史実の証明やさらなる発見をすることができそうです。

（文化財保護課 篠田泰輔）

こぜに ^{with} プラバエ ちゃん 行く!

さきたま史跡の博物館

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



さきたま史跡の博物館は、行田を代表する観光スポット「さきたま古墳公園」内にあります。館内には、古墳から出土した埴輪や土器、装飾品など、とても貴重な資料がたくさん展示されているよ。その中でも、ひときわ輝きを放つのが国宝「金錯銘鉄剣」。115の金の文字が刻まれている鉄剣は、古代国家成立の謎を解くとても重要な資料として、「100年に一度の大発見」ともいわれているんだ。

展示のほかにも、古代人に変装したり、火おこしなどに挑戦したりする古代体験や、まが玉や鉄剣パーパークラフトなどの製作をすることができるよ。

みんなで遊びにきて、古代にタイムスリップしちゃいましょう。

今月の表紙

6月10日、田んぼアート米づくり体験事業(田植え作業)が行われました。今年は歴史小説「のぼうの城」のカバーイラストに描かれている「成田長親」「石田三成」に、映画「のぼうの城」公開の文字も加わり、世界一の田んぼアートを目指します。(関連記事25ページ)

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています